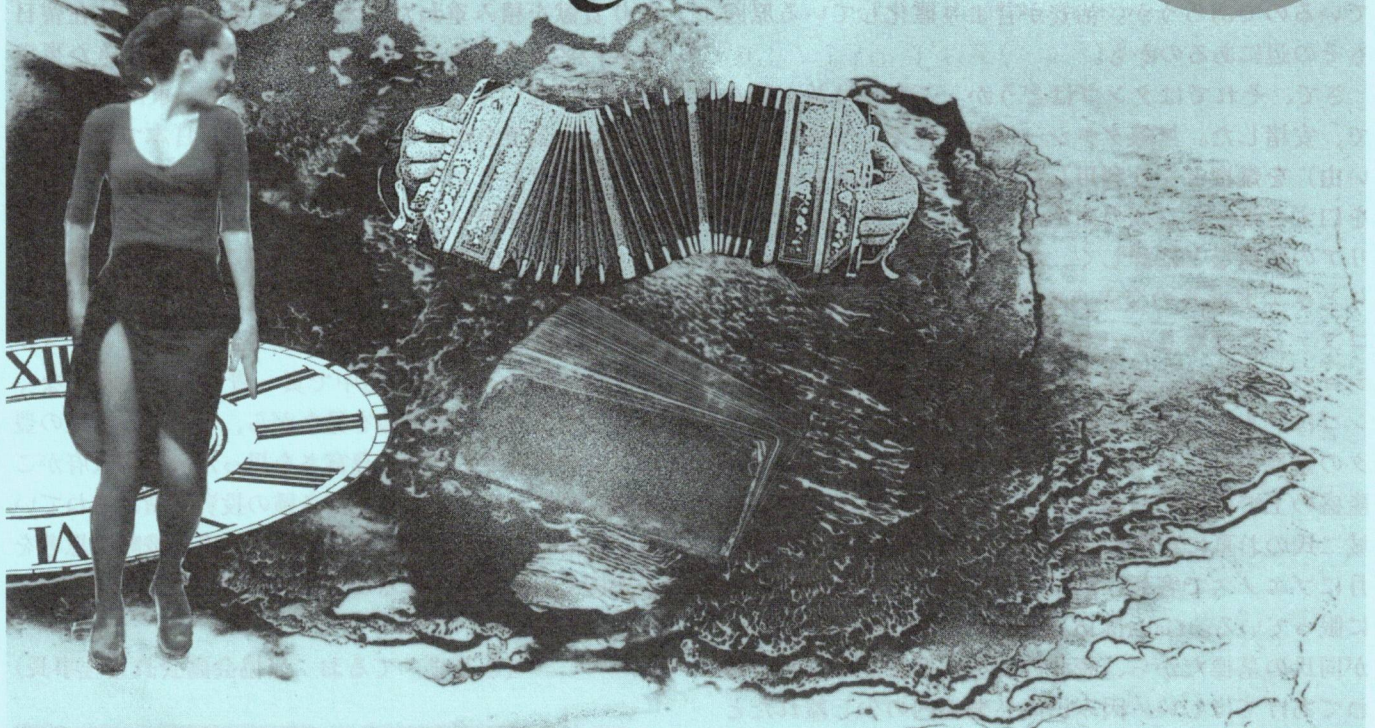


# Argentina

No. 51



© 星野 美智子

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2007年 12月

なつかしのアルゼンチン (随想) .....	1	タンゴ名曲物語 (3) .....	10
亜国マルチ経済ミッション・セミナー .....	2	Resumen en castellano.....	11
芸術家と主婦		協会の活動報告	
～星野美智子さんとの1時間～ .....	4	～50周年記念事業～ .....	12
リナ夫人の手紙 .....	5	～公益法人制度改革～ .....	14
新政権誕生後の亜国政治経済展望 .....	6	イベントのご案内 .....	15



## なつかしのアルゼンチン (随想)

木島 輝夫

10月19日から28日まで6年ぶりにブエノスアイレスに滞在した。今年は夏の到来が1ヶ月も遅れた為、本来ならば早咲きの花をつけているはずのハカランダー (jacaranda) は蕾さえ見えない。わずかにラパーチョ (lapacho) が咲いていたが、ハカランダーの麗しさには遠くおよばない。大路に覆いかぶさるように並木を作り、南米のパリといわれる街の風格を形成しているティパ (tipa) の黄色い花も今年は見ることが出来なかった。

そう言えば、本年7月9日 (Nueve de Julio、アルゼンチンの独立記念日) には70数年ぶりに雪 (nieve)

が積もり、人々は Nieve de Julio と洒落込んだとの由。このような異常気象は、いわゆる気候変動の一つとして南米でも問題になっているようである。

アルゼンチンの政治等について思うことは多いが、それをここに綴ることは遠慮することにしよう。ブエノスの中心にあるプエルトマデーロの再開発が6年前に比べ一段と進み、大変な活況を呈していること、ブエノスから30分～60分のゴルフ場つき分譲別荘地にはお城のような豪華住宅が続々建築されており、そのような別荘族のために、Pilar という町には御殿場や軽井沢のアウトレットも青くなるような豪華な店構えの



ショッピングセンターが出現したこと等をみると、確かに裕福な階層が増えていることは間違いない。

他方で、都心のレティーロ駅線路際の貧民住居群（Villa 31 と呼ばれる）が昔より一段と拡大しているのはひどく気になった。中産階級の崩壊、二分化が進んでいるのであろうか。治安が昔より悪化している原因もその辺にあるのかも。

さて、それではタンゴはどうか。こちらは益々盛んで、安堵した。無線タクシー（流しは乗ってはいけない由）を幾度となく利用したが、どの運転手もタンゴを口ずさみ、タンゴの曲をかけている。彼らはタンゲリアの名前などに詳しく、ある運転手はサンファン通りとボエド通りの交差点を通った際に、「ここはタンゴファンにはなじみのある場所だ」と言った。タンゴショーはどの店も満席で、外国人客も多い。やはりタンゴはアルゼンチンの重要無形文化財だ。チャカリッタの墓地にも行ってみた。戦後わが国においてタンゴ隆盛の上で陰ながら極めて大きな貢献のあった加根松城二氏のお墓に花を手向けるためだ。同氏は2001年3月にブエノスで客死、巨匠ブグリエッセの墓の真正面に眠っている。Galeria 15, Seccion 7, Manzana 7, Tablar 1 が同氏の墓標だから、読者の皆様も機会があったら尋ねてあげてほしい。因みに同じ墓地内の少し離れたところにカルロス・ガルデルの堂々たる廟がある。

アルゼンチン牛を腹いっぱい堪能するのも今次旅行の最大の目当てだった。どの店も満足の味だったが、大農場経営者でつくる農牧協会クラブの肉は殊の外ジューシーで、とても言葉では形容できない。6年前よりワインの種類・質とも格段に進歩しており、世界の展示会で金賞などを獲得することも多くなっている由。嬉しいことである。

因みに、政府の財政が黒字転換したのも牛肉・穀物・ワイン等一次産品輸出の上がり（輸出税）に負う所大きいとのことであった。

多くの在留日本人や日系人の方々にお会いした。何と言っても印象的なのは永田 守先生だ。鍼の泰斗で、

世界中から近代医学で治らない病苦の治療のために患者が先生を訪れるようである。そのような偉い存在であるのに、いたって腰が低く、75歳なのに60歳に見える元気ものだ。

このような方々の地道な活動が現地社会に長年にわたり貢献を積み重ねたことによって、日系人・在留日本人の名声を築き、両国間の関係を強化してきた事実を改めて思い、誇りに思った。因みに、永田先生は週二回は太公望を勉める釣り気遣いで、「日本では難しいが、アルゼンチンでは5kg～10kgのくえ（九絵）が釣れるから、是非いらっしゃい」との日本の釣り気遣い宛のメッセージを預かって来たので、ここにお伝えする。

紙数が尽きたので、この辺で筆をおくことにするが、トヨタが工場をもっている Zarate, Campana（ブエノスから120kmほど北）への途中で真っ青に澄み、限りなく大きな空とパンパの大地を見ながら、この国の国土の豊かさとその有する資源の豊富さを思った。中国政府がこの国に目をつけ、過去十年間各種の投資を積み重ねているが、南米でも実践されている中国政府の戦略的思考をわが国ももっと勉強することが大切ではないか。

（きじま てるお；当協会副会長兼理事長）



フロリダ通りにて

## アルゼンチン・マルチセクター経済ミッション 来日・セミナー開催

齊木 茂治

11月5日から7日にかけて、アルゼンチン外務省副大臣・国際貿易経済担当大使（元駐日アルゼンチン大使）アルフレド・キアラディア氏を団長とする官民総勢約30名より成るマルチセクター経済ミッションが来日、日本にアルゼンチンとのビジネス・チャンス、

投資機会を紹介するという目的のもと、大来財団、日本貿易振興機構（JETRO）、米州開発銀行（IDB）アジア事務所の協力を得てセミナー、商談会、ワイン試飲会を開催しました。

アルゼンチン企業からは、食品・飲料、高級ワイン、



オーガニック食品、皮革製品、ファッション・デザイン商品、コスメ、エンジニア・教育・スポーツサービスなど、さまざまなセクターから24社が参加しました。

特に、5日(月)9:30~13:30に赤坂のANAインターコンチネンタル・ホテル東京で「アルゼンチンと日本 ~チャレンジとオポチュニティー~ 大来レポートから20年を踏まえて」と題するセミナーとアルゼンチン外務省主催のランチ・レセプションが開催されましたが、月曜日の早朝にも拘わらず会場の収容人数140名を遥かに超える約170名(ミッション・メンバー及び大使館員約35名を含む)が参加し大盛況でありました。

日本側参加者にはJETROの幹部職員や商社・輸入業者が多数見えました。

セミナー概要は下記の通りであります。

- 主催： 駐日アルゼンチン大使館、大来財団日本評議委員会(FO-JAC)、IDBアジア事務所  
後援： JETRO・国際協力銀行(JBIC)、(財)海外投資情報財団(JOI)、日亜経済委員会、国際連合工業開発機関(UNIDO)、(社)ラテンアメリカ協会  
司会： 斉木 FO-JAC 評議員・事務局長  
開会挨拶： ポルスキ駐日アルゼンチン大使館大使、三輪外務省中南米局長  
基調講演： キアラデア外務省副大臣・国際貿易経済担当大使

セッションI: 大来レポートから20周年を踏まえて  
大来政策大学院大学教授・FO-JAC 世話役代行、デデザイン・ウリブル大来財団理事長代行

セッションII: 貿易・投資拡大

~ビジネス界の視点より~

- ①マチャド亜日経済委員会会長、②ウイラハン(株)ピーロットジャパン(ア国ワイン製造会社) マネージャー、③村松(株)アッシュベール・フランス社(日本デザイン業) 社長、④勝田(株)ビューテック社(自動車部品製造業) 専務取締役(前アルゼンチン・トヨタ社長)・FO-JAC 評議員、⑤奥山日本電気(株)顧問

閉会の辞： 鹿戸 IDB アジア事務所長

キアラデア副大臣は基調講演で下記を強調しました。

- (1) 2003年以來、アルゼンチン経済は年平均8%の成長を達成し、2001~02年の経済危機をほぼ克服したが、これは財政収支・貿易収支における二重黒字にも反映されている安定した生産性に重点を



キアラデア副大臣の基調講演

壇上着席向かって右より、大来教授、ポルスキ大使、三輪外務省中南米局長、大来財団デデザイン・ウリブル理事長代行

置く成長モデル・金融政策の実行、中銀外貨保有高の増大、管理変動為替制、債務削減、(2007年に22%を記録した)国内生産に対する国内投資比率など、様々な経済政策の成果と言える。

- (2) アルゼンチンは世界第2位の経済大国日本をアジア重視貿易政策の要と位置付けおり、日本向け輸出は2006年には50%増、2007年1~8月で33%増となったが、拡大を続ける2007年の同国総輸出に占める日本向けの比率は僅か1%で、中国向け9%、インド向け2%に比べ非常に少なく、食料分野を主体に一層の拡大を計りたい。因みに、今回の商談会でも11分野に対し約150件の商談申し込みがあり、その成果を期待している。
- (3) 投資についても、トヨタ、NEC、ホンダ、ヤマハ、NYK、日本シート・グラスなど進出企業の活動拡大や新たな企業進出が見られ、環境分野ではパタゴニア地区での日本カーボン・ファイナンス(JFC)による排出権取引も成約、エネルギー分野での新たな投資も期待される

セミナーは他スピーカーによる大来レポートの意義、トヨタ・NECの投資実績、アルゼンチンファッション・デザインの魅力などの講演やマチャド亜日経済委員会会長とのエネルギー・鉱物分野にかかる質疑応答など多岐に亘る充実した内容で、成功裡に終了しました。

この背景には、女性大統領が誕生した選挙直後の話題性もあるやも知れませんが、世界的にエネルギー、鉱物、食料などの資源争奪戦が激化しつつある状況下、アルゼンチンのアジア市場重視策に対し、日本側も経済危機から回復した資源(特に食料)大国アルゼンチンを見直そうとの気運が高まりつつあるものと思われます。

(さいき しげじ; 当協会理事)



# 芸術家と主婦「さっと頭が切り替わります」

～星野美智子さんとの一時間～

河崎 勳

アルゼンチン協会会報表紙のデザインをお願いしたのは3年前である。「あの表紙画の中の踊り子は、私がブエノスアイレスのドレーゴ広場で、蚤の市の中で踊っている姿を撮った写真です」

東京芸大絵画科で教えていたこともある版画の大家だが、自宅のアトリエでコーヒーを淹れてくれる星野さんはいつもとおなじ気さくでにこやかな普通の奥さんである。

星野さんがニューヨークでの個展から帰ってきた直後の2007年11月にインタビューした。「今のニューヨークの画廊で見る作品は軽いものが多くて、あまり刺激を感じませんでした」。そのマンハッタンの星野さんの個展は2ヶ月間開かれたが、新しい技法で制作した近作の方により人気が集まった。

油絵の色彩画から白黒のリトグラフ版画へ。色彩による限定を拒否して表現の可能性を広げようとした。リトグラフは、ロートレックやピカソも作品を残しているように石版に描くことから始まった版画である。現在では金属版を使っているが、星野さんの最近の版画はウオータレス・リトグラフというシリコンを使う新しい技法で制作されている。この技法では、試刷り後の加筆修正は出来ないという厳しさがあるが、刷りによってデリケートな調子が潰れて行かないという長所もある。伝統的なリトグラフにくらべ、モノクロ表現をより豊かにすることができるという。

星野さんの対象は、具体的に見えるものよりも内面の世界である。人間の知や情念の世界を絵で表現することを追いつけているときアルゼンチンのボルヘスの文学に出会い、「同じようなことを考えている人がいるのだ」と深く共感した。以来ボルヘスと共通のテーマで制作を続けている。

そのボルヘスへの関心からアルゼンチンとのつき合いが始まり、個展や版画指導などでたびたびアルゼンチンを訪れてきた。東京の国立美術館での今春の国展では、アルゼンチン版画の特別展示のために奔走した。

「日本の現代版画は水準が高く世界的に評価されています。浮世絵とのつながりですか？写楽や北斎らの木版画はもちろん尊敬されていますが、日本現代版画への評価はそれとは別のものと思います」

—前々からお訊きしたいと思っていたのですが、主婦と芸術家との両立はどのように？



星野美智子 (ほしの みちこ) さん

国画会会員、日本版画協会理事、日本美術家連盟委員、日本アルゼンチン協会評議員。『星野美智子全版画集』は2006年阿部出版より刊行

「そうですね。自分のこどもの食べるものを他人にまかせる訳には行きませんが家事はしてきました。はじめのうちは料理をしながら制作のことを考えたりもしていました。でも長い間に切替えの訓練ができてしまって。今は家事が終わると『さあこれから自分の時間だ』と、さっと頭が切り替わります」。家事は家族のためのサービスで、制作は自分のためだという。ドアを隔てたアトリエに入ったら他のことは考えないで制作に没頭する。

—芸術家は気難しいというのが通念ですが、星野さんはどうしてそんなに気さくなのですか。

「あらそうかしら、現代画家の、芸術家っぽく気負わず何でもない顔をしているほうがかっこよいという美意識もありますね。それに私は、制作していないときは出来るだけ神経をゆるめているほうが、制作中の集中力が強くなるタイプです」

ロンドンの大英博物館に「バベルの図書館—砂の本」、ワシントンの議会図書館に「円環の廃墟—ボルヘスの図書」、その他世界の多くの美術館に星野作品が所蔵されている。

「説明がなくても、絵の方から観る人の心を掴みにくするような、そういう版画を作り続けたいです」





# リナ夫人の手紙

8月12日 日曜日

「アルゼンチン協会の横須賀へのクルーズは、私も日本にいるとき参加させて頂きました。懐かしいです。日本のみなさんが、サン・マルティン将軍のことを大切に思っているのはとてもうれしいです。

日本の今年の夏はたいへん暑いそうですが、ブエノスアイレスは例年になく寒くて長い冬です。7月9日の祝日に、主人が手に入れたばかりのクルージング・ボートに初めて乗せてもらい、北の方からルハン川を下ってブエノスアイレス郊外までクルーズしました。とても素晴らしかったのですが、途中で雪が降り出し、ああ、その寒かったこと！ヌエバ・デ・フリオの独立記念日に雪が降ったのは89年ぶりですって。早く夏が来ないかしら。

この冬の女性ファッションの色は、グレー、すみれ色、紫、ライラックのうす紫、ラベンダー、それにブラウンです。だんだんとアルゼンチン人のデザインが好まれるようになってきています。アルゼンチン人の若いデザイナーが、フランス、イタリア、アメリカのファッションからヒントを得て（上手にミックスして）独自のデザインを出します。そういうのが南米の他の国でも好まれるようになってきています」

9月30日 日曜日

「ブエノスアイレスは春になってきましたが、冬に戻ったかと思うような日がきたと思えばあくる日は暑くなったりします。

私は、日本へ行く前にしていた裁判所調査官の仕事に戻りました。刑事裁判にかけられている被告の生活環境—教育や仕事など—を実地に詳しく調べて裁判長に報告するのです。私の担当のブエノスアイレス南部地域は、よい職もなく環境もよくない犯罪発生率の高いところです。日本のようにどこへ行っても教育のレベルが高く、衛生状態がよく、道路もきれいで社会保障が整っているという訳には行きません。社会の違いを思います。ここでは現場へ調査に行く時は目立たないような質素な服装で、車ではなく電車やバスで移動します。私の報告で、罪にならないで済む人も出てくるのです。この仕事ができるのをうれしく思っています。

時折日本の友人がブエノスアイレスを訪ねてきて下さるのはとてもうれしいです。

アルゼンチン協会のスペイン語講座の生徒さんだった小林謙一さんと池上良子さんとも久しぶりにお目にかかり、わいわいとおしゃべりをしました」

## 河崎 勳

11月18日 日曜日

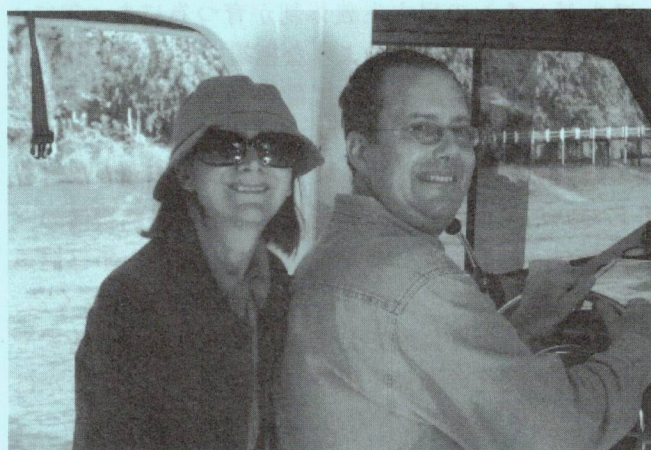
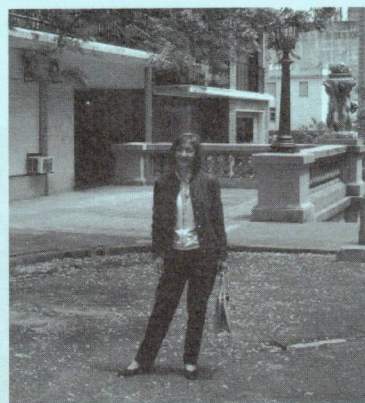
「ブエノスアイレスは夏に向かい、ハカランダの木の紫色の花が真っ盛りです。

寒いときも暑いときも、アルゼンチン人の食事は、あなたがここにいらっ

しゃった40年前と、いえもっと正確に言えば200年前と変わっていません。毎日ビーフが中心です。茄子やさつま芋やトマトのような野菜のつけ合わせより結局牛肉の方が安上がりなのです。海の幸は輸出にまわして、自分たちはビーフでハッピーなのです。ただ、わが家では牛肉は週に2回どまりです。あとは魚介料理とかパスタとかにします。メニューにもっと魚を取り入れたいのですが、日本のように新鮮でいろいろ選べる種類がなくて。それにしても、ああ、日本の天麩羅が懐かしいわ。

今度のバカンスですか？アルゼンチンでは、10年以上働いてきた人は1ヶ月以上夏休みをとります。カルロス（ご主人）は新しいボートを乗り回したいのです。私は、日頃のストレスを忘れて何もしないでのんびりと海辺で過ごしたいのです。主人と私で妥協ができました。年が明けたら1月は15日間デルタ地帯でボートめぐりに費やします。そのあと3月は夏のブラジルの海岸で過ごすことになりました。バカンスは私たちにとってはとても大切なものなのです。

アルゼンチン協会の皆様のよい新年をお祈りいたします」



リナ夫人とご主人

リナさんは、ルビオ・レイナ前駐日アルゼンチン公使夫人として日本に7年8ヶ月滞在した。日本アルゼンチン協会ボランティアとしてスペイン語の講師を引き受け人気が高かった。ご主人は、現在アルゼンチン外務省移住局長。



# 新政権誕生後のアルゼンチン政治経済情勢展望

菊池寛士



12月10日に就任する新大統領  
クリスティーナ・フェルナンデス

10月28日予定通り大統領・州知事・上下両院議員・市長等の選挙が実施され、クリスティーナ・フェルナンデス候補が44.9%の得票率を集め、2位のエリサ・カリオ

ロベルト・ラバーニャ(16.9%)等に大きく差をつけ、憲法の規定により本年12月10日に就任する次期大統領に当選した。アルゼンチンにおいては投票は権利ではなく「国民としての憲法上の義務」である。それにも拘わらず投票した有権者数は全体の71.76%という民政復帰後最低の投票率でその中でも白票や無効票が6%にも達した事がクリスティーナの得票率を40%以上に押し上げた事は間違いないが、結果として、彼女の当選は不動の既成事実である。棄権率が高くなったのは国民の無関心にもよるが、投票所の不手際により開場が遅れ、早朝に投票を済ませようと参列した有権者が何の説明も無く待たされて数ブロックも行列を作り中には憤慨して帰宅したものが多かった事；白票が予想外に増えたのは野党各派の投票用紙が盗難に合い、野党有力候補の投票用紙が無くそれを指摘すると反クリスティーナを自白するような結果になることを恐れて白票を投ずる者や、意中の候補ではない第三者の用紙を選ぶしかなかった者等数多くの投票妨害行為が指摘されている。

アルゼンチンの民主主義体制が育つ為にも4年に1回の大統領選挙日にこのような極端な例が普遍的に発生する事は今回が最初にして最後になって欲しいものである。いずれにせよ、クリスティーナの当選に中産階級の票は必要では無く、クリスティーナが距離を置こうとしていたペロン党の地方指導者とその下部機構の一般大衆だけで当選に必要な得票率を上げ得た事は間違いない。然しペロン党員は必ず見返りを要求してくる。この辺をどのように対応し老練なペロン党系政治家や労組指導者達との関係を円滑に運用して行くか否かは彼女の政治手腕次第と言える。

ブエノスアイレス市、ロサリオ市、コルドバ市、ラプラタ市、マルデルプラタ市、バイア・ブランカ市等の中産階級の多い比較的民度の高い都市部とサンルイス州(アルベルト・ロドリゲス・サア本拠地)を除く殆ど全ての地方各州で勝利したクリスティーナ次期大統領

には定員72名の上院で41名の自派議員を確保し、定員256名の下院においても137名の自派議員を抱える結果になるというおまけまで付き、自派議員だけで定足数を上回り、議会の完全制圧に成功したので必要な法律は堂々と議会立法で制定出来る事になった。クリスティーナの選挙運動に使われた標語は「改革と継続」と言うものであった。「ネストル・キルチネル大統領4年半の実績を尊重して継続すべき政策は継続させ、改革する必要があるものは是正して行く」と言うように善意解釈できるが、選挙運動中政策論議には一切触れなかったクリスティーナを評して、改革するというのは①海外出張嫌いのネストルと違ってクリスティーナは外遊が大好き；②服装に拘らない事で有名だったネストルに代わってクリスティーナはファッション性を重視し服装に合わせて靴やハンドバック等の細かなコンビネーションに迄気を使う；③プロトコル無視のネストルの過ちを正し外交団との集会等にも約束の時間を守るようになるだろう等の点だけで、後はネストルの操り人形としてネストルの指示の下に行動するだけ、結果的に大筋ではネストルの経済政策・対外政策が引き続き継続される事になると言う厳しい見方も多い。クリスティーナはフォルクスワーゲンのVictor Klimaアルゼンチン現法社長(元オーストリー首相、社会主義育ちの資本主義容認者)の道案内で選挙運動中最後に訪問したドイツが大いにお気に召したようで、「アルゼンチンがドイツのような国になるのが私の目標だ」と大統領当選後最初の記者会見(と言ってもナシオン紙記者ホアキン・モラーレス・ソラーをオリーボスの公邸に呼んでの個別インタビュー)で言ったようだが、「教育水準が高く勤労精神や遵法精神の強いドイツ国民大衆の存在を前提とした現在のドイツと、教育投資が少数の上流階級と中産階級の上に属する階層の子弟に限定され、一般国民の子弟は完全に愚民政策の犠牲になっているとしか思えないアルゼンチンとの違いを認識していない発言」と言う厳しいコメントも聞かれる。

キルチネル政権の一見好調な経済政策を継続する上には旺盛な食欲を発揮して穀物の商品相場高騰に貢献している中国とインドの経済成長が持続する事が前提になっており、現状では中国とインドの牽引車的な立場に変更があるとは見られない。然しその反面、キルチネルの国内経済成長に寄与したインフラストラクチャーや企業生産財に対する投資はすべて90年代に実施されたものの遺産であり、その後新規投資が停滞している為設備の劣化が見られこれ迄の生産性を維持する事さえ困難になって来ている。言うなればクリスチー



ナは海外市況の好況は引き継げるが、エネルギー生産も含む設備の劣化現象という負の遺産も同時に引き継ぐ事になり、大衆迎合政策を実施していても勝手に経済成長率を高める事が出来たネストルよりも遥かに悪い条件での船出になると言えよう。

12月10日の次期大統領就任式迄にネストル・キルチネル政権にどうしても政治コストを払って処理してもらいたいのは公共料金改定(引き上げ)問題であろうが果たして可能であろうか。政権の引継ぎ問題は夫婦間で話し合えば殆ど解決する問題なのでこれだけはキルチネルが自慢するようにアルゼンチン政治史上もっとも円満な政権の交代・引継ぎになる事は間違いないが、先送りされて日毎に膨れ上がる下記諸問題が未解決のまま引き継がれるのはアルゼンチン史上最初に公選された女性大統領にとっては前途多難以外の何物でもないであろう。

12月10日に就任するクリスティーナと彼女を選んだアルゼンチン国民(有権者総数の約30%)の前に待ち構える重要な懸案事項を列記すれば下記のようなになる:

1. 三権分立を政治の基本と定める憲法のもと、法秩序を守る法治国アルゼンチンと言うイメージの回復。
2. 覆面をした暴徒集団のデモ行為やピケテロスの道路封鎖等を政権発足当初から容認した結果、警察の不法行為強制排除や、犯罪の防止につながる職務尋問等が事実上禁止され、治安の悪化を促進し、所によっては無防備都市・犯罪者に対する解放区化された区域さえ見られる。この問題はブエノスアイレス州の人口密集地域における犯罪の増幅につながり一般大衆の生活を脅かす最大の問題と化している。これに対し法(新規に作成する必要なく現行法の枠内で充分)の厳正なる行使で対決すべきであるが、その為には政治的決断が先行すべきであり、ピケテロス行為容認で始まった夫ネストルの基本政策と対決する事になる。
3. 教育環境の悪化問題に対する対策。現在ブエノスアイレス州内の中学校では中学生の半分以上が卒業せず中途退学している現状で、これは貧困に原因を求めるよりも教育の効果に関するモチベーションの欠如が大きい。教員も生活苦と闘い賃上げストに熱を上げるだけで教員としての神聖な使命感が欠如しているものが大半を占め、教育の荒廃に相乗効果を発揮している。国民教育の充実が一国の進歩・発展に重要な鍵を握っていることは日本の例を見るまでも無く最近欧州第一の高所得国に変身し得たアイルランドの例でも明らかである。この問題を放置しておく教育投資に熱意を燃やせる上流・中流階級の子弟(年々人口比が激減している)と下層階級(内縁関係も含めた夫婦当り最低でも4-5名の子供を持ち8名位は普通である)の子弟との人口比のみならず教育水準の差

も拡大し、アルゼンチンは数年間で完全にラテンアメリカ化してしまう。教育格差の拡大は文化水準のみならず経済水準の格差をも増大させ、この傾向が進むとアルゼンチン社会は少数の富裕階級と多数の貧困階級に分裂し統治不可能な一部のアフリカの国の事例並みに落ち込む可能性さえ見える。ネストル・キルチネルはペロン党の選挙対策の核である大衆迎合政策と愚民政策にもっとも熱心だった大統領であるが、クリスティーナの“改革”には公立学校の教育水準を高め教員や生徒達に新しいモチベーションを与える事も入っているのであるか?

4. 麻薬禍増大傾向に歯止めをかける対策の実施。最近数年間でアルゼンチンは麻薬の通過国から南米有数の麻薬消費国に変貌し、コカイン精製上の過程で発生する残留物から作られるPacoと称される安価低級な麻薬が青少年の間に普及し彼らの頭脳を蝕む主因と化している。コカインの精製に必要なアセトンの生産が飛躍的に増えているのも、ブエノスアイレス州を始めとする地方各州の普通の住宅を改造した麻薬密造所がアメーバのように増えており、これが未成年者の凶悪犯罪行為の引き金になっている事が多い。麻薬禍撲滅の根本的対策にもクリスティーナの政治的大決断が必要であるが如何であろうか?
5. フィンランドの世界最大製紙プラント・グループBOTNIAがウルグアイ川の対岸フライベントスに建設中のパルプ工場を巡って発生した環境問題トラブルが外交的手段では解決できず、エントレリオス州住民の強硬派がアルゼンチン領とウルグアイ領を結ぶ国際橋を封鎖してから1年半を經過し、両国間の国際紛争に発展している。建設工事は完了し何時でも操業開始の準備が整っているが、調停に乗り出したスペイン国王の面子を立てて、この木曜(11月8日)、チリーのサンチャゴで開催されたイベロアメリカ諸国首脳会議(キルチネル夫妻とタバレ・ヴァスケスがスペイン国王特使の斡旋で折り合い点を見つける事が期待されていた)まで操業が延期されていた。然しウルグアイ大統領タバレ・ヴァスケスはアルゼンチン政府が国際道路封鎖を黙認している間話し合いでの解決はあり得ないという立場を変えない為妥協点を見出す話は失敗に終わった。これには後日談があり、サンチャゴのアルゼンチン大使館における顕彰プレート(1973年9月11日アジェンデ政権がピノチェットのクーデターで倒された際の832名もの政治的亡命者を当時のアルゼンチン大使館が受け入れて庇護した事を記念した顕彰碑)の除幕式に出席したチリー外相アレハンドロ・フォックスレイを2時間も待たせた上に、除幕式をそつ



ちのけして BOTNIA 問題抗議の為に来智し大使館前に集まっていたグアレグアイチュー市の住民大会派（国際道路封鎖派）の代表と接触し嘆願状を受け取って激励するという外交慣例無視の行為に出た為、タバレ・ヴァスケスは感情を害し、直ちにウルグアイ政府の環境問題担当相マリアーノ・アラナに電話を掛け BOTNIA の操業開始を許可するよう指示、翌日金曜（11月9日）朝6時にボイラーに点火され翌週月曜12日からパルプ工場の稼動開始となる運びになった。こうなった以上本件は現状ではアルゼンチン政府が提訴しているハーグの国際司法裁判所が結論を出すまで待つしかなく、姉妹国ウルグアイとの国際紛争を解決する責任も新大統領クリスチーナの双肩に移管されるのは間違いない。これに関しても彼女の政治的決断如何にかかっており、国際道路封鎖を容認してきた夫ネストル政権の方針に如何対処するかがクリスチーナの外交方針の方向を占う上で注目されている。

6. インフレ係数を人為的に操作し見せかけの数字でインフレの実情を隠蔽しようとしている現政権の政策の結果、国家統計院 INDEC の信頼性は地に落ち、経済に関する公式指数が信用できない国と言う悪印象が真面目な投資家の投資意欲に水をかける結果になっている。本件の解決も新政権の大きな仕事であるが、インフレの実数公表につながる INDEC の改革は労組の賃上げ要求やインフレ連動国債の支払い額の増加等を始めとする様々な波及効果を発生させる危険性も孕んでおり本問題の解決には極めてデリケートな方策が要求される。
7. キルチネル時代に創設された国営企業は飛行機の飛ばない国営航空会社 LAFSA や石油天然ガスの自前での開発が出来ない国営エネルギー公社 ENARSA 等巨額の予算を無駄使いしているものが多い。海外の商品取引相場の好況のお陰で財政収支が予定以上の黒字を計上してきたからこそこうした無駄使いも黙認されてきたが、2008年以降財政収支の逆調も予見され、政府財政収支の均衡化のためにはこれらの新設国営企業の整理が必要になろう。
8. 3億人の人口を養うに十分な穀物生産を誇るアルゼンチンにおいて貧困の為栄養失調に苦しむ国民が増大している。この矛盾は最近親政府派マスコミも取り上げるようになり餓えに苦しむ幼児の姿などがテレビ・ニュースの話題にもなっている。又ブエノスアイレスの周辺部では下水道の普及が遅れ使用済みの汚水が舗装されていない道路の両脇を流れ住民の健康に大きな障害を与えている実情もテレビ・ニュースに取り上げられ出して来ており、これらの問題の解決も次期政権の大き

な課題になってきている。

9. 2001年1ドル／1ペソ時代に通用していた公共料金がデヴァリュ／ペソ化後も当時のペソで固定され、公共事業を運営する企業は投資を据え置き、猛暑が予想される今夏、家庭用エアコンだけで約百万台が追加される予定で、これだけでエル・チョコン水力発電所の発電量の40%以上を消費する事が予想されこの夏の電力不足は新政権が発足直後に遭遇する最大の問題に発展する事が憂慮されている。発電量の増加には巨額の投資が必要であるのみならず投資開始から発電所の稼動までには最低でも2年半の時間が必要である。又、鉄道・地下鉄・路線バス等の公共料金も値上げが禁止され、その代わりに政府はそれぞれの運営企業に人件費とメンテナンス・フィーに対する補助金支給で対応してきているが年間数十億ペソと言う補助金支給にもかかわらずサービスの質は低下する一方で、公共料金の引き上げは最早一刻の猶予も認められない緊急課題に発展している。

ミゲル・ベイラーノ経済相とギジェルモ・モレノ国内経済庁長官の軋轢に端を発して公にされたキルチネル政権の閣僚間相互の抗争と新政権での入閣人事が取り沙汰されていたこともあり、急遽予定を早めて11月14日、突然アルベルト・フェルナンデス内閣首班が大統領府付新聞記者を集めて、12月10日からの新内閣及び閣僚級の重要人事の名簿（人名と担当部署のみ）を発表した。

新政権の閣僚は次の通り（順不同）：

内閣首班：アルベルト・フェルナンデス（留任）

外相：ホルヘ・タイアーナ（留任）

内相：フロレンシオ・ランダッソ（新任）

厚相：グラシエラ・オカーニャ（新任）

連邦企画相：フリオ・デ・ヴィード（留任）

国防省：ニルダ・ガレー（留任）

司法・治安維持・人権相：

アニバル・フェルナンデス

（内相から横滑り）

教育相：ホアン・カルロス・テデスコ

（副大臣より昇格）

科学技術省（教育省より分離、新設）：

ニール・バラニヨン

経済相：マルチン・ルストー（新任）

労相：カルロス・トマーダ（留任）

社会福祉事業相：アリシア・キルチネル（留任）

大統領府官房長官：オスカル・パリリ（留任）

大統領府法制長官：カルロス・サニニ（留任）

下院議長：エドואルド・フェルネル（フワイ州知事、知事3選出馬を断念し、キルチネルの指示で就任。同



議長椅子が約束されていたブエノスアイレス州知事フェリッペ・ソラーは、上院議員に就任するカルカーニョ現フランス大使の後任としてパリ駐在となる模様)。

ベイラーノ経済相が12月9日で退任(新設のBANADE国立開発銀行総裁になる予定)し、後任には現ブエノスアイレス州立銀行頭取のマルチン・ルストーが就任することになった。

この経済相の交代人事と厚相に抜擢されたグラシエラ・オカーニャ、内務大臣に抜擢されたフロレンシオ・ランダッソの人事位が人目をひく程度で、キルチネル現政権の主要閣僚は殆んど留任するという継続人事と言えよう。大統領が亭主から妻に替ってもキルチネル政権そのものが継続する体制には変化がないことが明確に打ち出された人事と言えよう。

アルベルト・フェルナンデスとフリオ・デ・ヴィートの二人が揃って留任したことが閣内にこの二つの派閥を温存させ互いに拮抗させながら閣内の均衡を維持するというキルチネルの方針がそのまま継承されたことを物語り、今回の閣僚人事の決め手であったと言えよう。アルベルト・フェルナンデスとカルロス・サニニはクリスチーナ新大統領の信望厚く、留任は前から予想されていたが、デ・ヴィード連邦企画相の留任はクリスチーナの叫んでいた政治の透明化に逆行するものであり、ネストル・キルチネル前大統領の院政を示すともコメントされている。国家予算の70%を握る連邦企画相の任務はエネルギー問題から公共土木事業、交通運輸・通信事業に対する政府補助金行政を一手に掌握するものであり、10月選挙では公共土木事業予算を地方市長に漏れなく分配し、クリスチーナの票集めに最も実績をあげた閣僚であった。キルチネルがデ・ヴィートを留任させる第1の理由であった。デ・ヴィートがキルチネルの最重要金庫番ともいわれ、クリスチーナがデ・ヴィートを切ることが出来なかった原因でもある。カルロス・トマーダの留任は、労組との関係が深く、特にCGT書記長ウーゴ・モジャノとの仲が最近円満であることが評価された模様。デ・ヴィート派の閣僚が殆んど留任したのに比して、アルベルト・フェルナンデス派の閣僚はフィルムスの後任として昇格したテデスコを除いては、いずれも新任のルストー経済相、オカーニャ厚相、ランダッソ内相の3名に絞られる。ルストー経済相は36歳という若さで、クリスチーナの信望あり、経済学者としても経済行政家としても取り立てて知名度、実績が無いことが逆に幸いして、キルチネル“経済相”の方針をこなしていく実務家に徹すれば長続きしうる素質充分と言えよう。

最初に遭遇する大きな問題は、今夏予想されるエネルギー危機と労組の賃上げ要求である。

これに直接対応するのはデ・プイト連邦企画相とトマーダ労相で、ルストー経済相には直接関係がないの

も、かかる問題は留任するベテラン達に任せようとするキルチネルの意がちらつく。

クリスチーナがキルチネル路線の継承に繋がる閣僚人事をOKしたのは、クリスチーナに投票した有権者がキルチネル政権の継続を期待した為であり、世論が継続を望んでいるのに慌てて改革をする要もなからんとする主張が大勢を占め、今回の選挙の勝利がキルチネルを実質上の政権の舵を握る統治者とする大義名分を作る原因にもなったと評する向きもある。しかし有効投票の55%は継続に反対する投票であり、これからのかじ取りを注目するところである。

現在の経済政策に手直しが必要であることは内外の有識者が一致して観察している通りである。海外からの投資を復活させる為に国際金融機関との関係を修復し、先進国に拠点を置く多国籍企業群からもアルゼンチンは契約を尊重する法治国として再認識してもらうためには、民営化された公共事業企業群との国際法規に基づき契約の更新が必要であり、国内治安問題の解決や公共事業をめぐる汚い噂の元を払拭することも要求されよう。

然し、アルゼンチンを国際的に孤立化させ、ベネズエラのチャベス大統領の我儘を受け入れ、ウルグアイとの国境紛争紛糾させたタイアーナ外相の留任、「治安悪化はマスコミの体感温度に過ぎない」と嘯き治安維持対策を回避してきたアニバル・フェルナンデスが司法・治安維持相に就任したこと等、今回の継続人事には疑問が多いことも事実である。

このような閣僚人事をもってクリスチーナはどのような独自色を出して行くのだろうか。

「継続」に投票した有権者が何時「改革」を叫び出すようになるかは経済情勢が何時まで現在の状態を維持できるかにかかっていると見る向きも多い。

今回の大統領選挙に於いて、野党陣営が統一候補を絞らず乱立したことが、クリスチーナの当選を助ける結果になり、盛り上がり欠けたのも、この難局はキルチネル夫妻に任せて、2011年を睨んでお手並み拝見と野党陣営が静観策をとったと解釈するコメントもある。

一番なおざりにされるのは、常に一番犠牲を払われる一般国民であるのは、古今東西を問わず政治という怪物につきものの現実なのであるだろうか。



クリスチーナ・フェルナンデス

(きくち かんじ; ブエノスアイレス在住、KMK CONSULTORES ASOCIADOS)



# タンゴ名曲ものがたり (3)

## ～インテルナードのバイレ～

石川 浩司

今回は単独の名曲ではなくて、今から100年近くも昔、ブエノスアイレスの医学生たちのダンス・パーティから生れたいろいろなタンゴをご紹介します。中にはその場限りで忘れられてしまったものもあり、現在に至っても度々演奏されている名曲あり(と言ってもこれまで書いた「ラ・クンパルシータ」や「エル・チョクロ」のように世界的に有名というわけではないのだが)それぞれの曲の誕生の背景を調べてみるとなかなか面白いのだ。

「インテルナードのバイレ」というのは1914年9月から1924年9月まで、毎年春分の日(11日)に亘って開催され、その年の人気楽団が演奏に招かれた。招かれた楽団リーダーは新作のタンゴを献呈するのが慣わしになっていた。

第1回は1914年の春分の日、パレルモの有名な踊り場「パレ・ド・グラス」で行われた。演奏はフランシスコ・カナロおよびロベルト・フィルポの2楽団である。この時カナロが演奏したのは「エル・アラクラン」(さそり)と「マタサーノ」(藪医者)で、後者は皮肉にもドゥラン病院のインターンに捧げられている。一方のフィルポはサン・ロケ病院のインターンに「エル・アプロンテ」(試走)を献呈しているが、これは競馬に因んだタイトルである。わざわざ医学生に絡んだ曲を作るヒマがなくて手近にあったものを転用したのか、或いは医学生たちが競馬に熱中していたからか。

翌1915年のパーティも同様カナロとフィルポが出演したが、この年にカナロはそのものずばりの「エル・インテルナード」(インターン)を、フィルポは「エル・ビストリ」(メス)を作った。前者は今でもよく演奏される名曲の一つでわが国でも愛好するファンが多い。この年作られたものではロペス・ブチャルドの「クリニカス」(診療所)というタンゴがあるが、これもインテルナードのバイレ関連の曲ではなからうか。

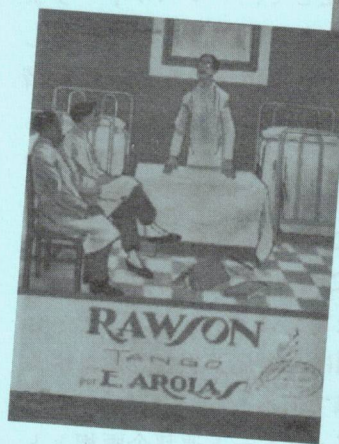
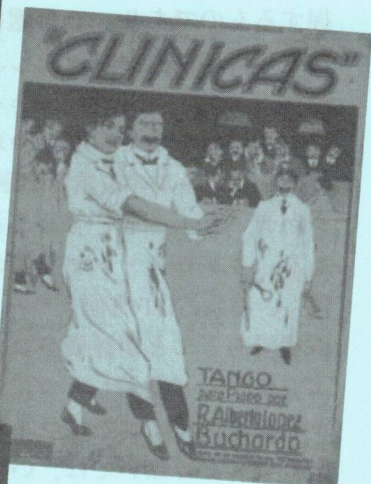
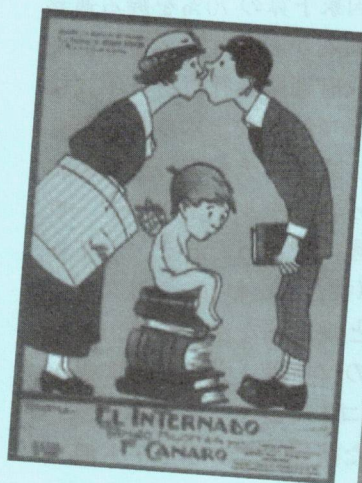
1916年にはエドアルド・アローラスが同名の病院に因んだ「ラウソン」を書いた。この病院は現在でも盛業中だがアローラスはこの病院の近くに住んでいたから多分ここの患者だったのだろう。アローラスは1924年にパリで死去するが、その死因はよくわからない。だが結核だったという説もあり、そうだとすればたびたび通院していたとしても不思議ではない。この曲はこの病院の3人の医師に献呈されているが、それは診療に対する謝礼なのか、薬代だったのか。

このほかに当時の作品としては、ビセンテ・グレコが「エル・アナトミスタ」(解剖学者)「ラ・ムエラ・カリアーダ」(虫歯)ホセ・マルティネスは「エル・

テルモメトロ」(体温計)オスバルド・フレセドはフェルナンデス病院のインターンに捧げた「アモニアコ」(アンモニア)を作曲している。フレセドはこのバイレの常連楽団だったようで、1924年第11回のバイレの為に作ったのが「エル・オンセ」(11)である。この曲はわが国では一時「11番街」と訳されていたが、ご承知の通りブエノスアイレスには駅名でオンセというのがあるが「11番街」という通りはない。この曲の本題は「ア・デイベルティルセ」(お楽しみ下さい)という名で11回目のパーティだからというので副題として「エル・オンセ」と名づけられている。ところが、この11回のパーティが終わったあと、ある忌まわしい事件(殺人)が起こり以降このダンス・パーティは開催が許されなかった。結果的にはお楽しみにはならなかったようだ。

なお、当時発行された楽譜の表紙には題意を説明したユーモラスな絵が使われている。そのいくつかを掲げてみた。

(いしかわ ひろし; 当協会理事)







## **Recordando Argentina (p. 1)**

por Teruo Kijima

Del 19 al 28 de octubre estuve en Argentina. Han pasado 6 años desde mi última visita. Por un lado, vi espléndidas quintas y shoppings lujosos, por el otro lado, vi que la Villa 31 también está expandiéndose. La clase media está desapareciendo. Pude saborear la carne argentina y los vinos. Estuve con japoneses residentes en Argentina y nikkeis. Viendo el cielo azul y la Pampa recordé cuán rico es este país.

## **Misión comercial multisectorial a Japón (p. 2)**

por Shigeji Saiki

Del 5 al 7 de noviembre, una misión comercial de aproximadamente 30 personas encabezada por el viceministro de relaciones exteriores de Argentina, Alfredo Chiaradía, visitó Japón para informar sobre oportunidades de negocios e inversiones entre ambos países. El programa contó con la colaboración de la Fundación Okita, JETRO y el Banco Interamericano de Desarrollo. Los rubros representados fueron alimentos, bebidas, vinos finos, productos orgánicos, cueros, diseños, cosméticos, moda, servicios de ingeniería, educación, deportes y otros.

## **Artista y ama de casa (p. 4)**

por Isao Kawasaki

Entrevista a la reconocida grabadora Michiko Hoshino. Hace 3 años que le pedimos que diseñara la portada de nuestro Boletín. En su reciente exhibición en Nueva York, aplicó una técnica nueva: litografía sin agua. A través de su obra, ella no busca cosas concretas sino el mundo interior del ser humano. Su relación con Argentina empezó leyendo a Borges. Es ama de casa y artista plástica. Cuando termina los quehaceres del hogar, entra a su atelier y se concentra en su obra artística.

## **Carta de la Sra. Lina (p. 5)**

por Isao Kawasaki

Aquí en Bs.As. hemos tenido un invierno muy frío.

Estoy trabajando nuevamente como Oficial del Juzgado Penal. Algunas personas serán declaradas inocentes en base a mis informes. Nos encanta cuando nuestros queridos amigos de la Asociación nos visitan. Los argentinos seguimos comiendo bifés. No hay tantas opciones de pescados como en Japón. En vacaciones, iremos 15 días a navegar y un mes a la playa.

## **Situación política y económica de Argentina después de la asunción del nuevo gobierno (p. 6)**

por Kanji Kikuchi

Cristina Fernández asumirá como Presidenta de la Nación el próximo 10 de diciembre. Las cuestiones más importantes que deberá tratar son: 1) recuperar la imagen de Argentina como país respetuoso de la ley y el orden, 2) tomar medidas para mejorar la seguridad y reducir los delitos, 3) detener el empeoramiento del ambiente educativo, 4) frenar el tráfico y el consumo de estupefacientes, 5) resolver el conflicto con Uruguay por la construcción de la fábrica finlandesa Botnia, 6) solucionar el problema del INDEC, 7) liquidar las empresas estatales sin sentido como LAFSA y ENARSA, 8) buscar una solución a los problemas de malnutrición y falta de higiene y 9) levantar la prohibición de aumentar las tarifas de los servicios públicos. Se anunciaron los integrantes del nuevo Gabinete. Por ahora, la Presidenta continuará la política de su esposo.

## **Serie Melodías Memorables Parte 3**

### **Los bailes del internado (p. 10)**

por Hiroshi Ishikawa

Hay muchos tangos que nacieron hace casi 100 años, en los bailes del internado: fiestas organizadas por estudiantes de medicina en Buenos Aires entre 1914 y 1924. En 1915, Francisco Canaro compuso "El internado" y en 1916, Eduardo Arolas presentó: "Rawson". En 1924, Osvaldo Fresedo creó: "El Once" que llevaba como subtítulo: "A divertirse" pero poco después de terminado el baile ocurrió un asesinato y nunca más se permitió la realización de esta fiesta.



# 協会の活動報告

## 1. 当協会社団法人発足 50 周年 記念事業

### 8月6日(月) 護衛艦乗船体験航海とサン・マルティン 将軍胸像参拝ツアー

海上自衛隊及び防衛大学の格別のご協力とご厚意により、50周年記念事業に相応しい行事として、多くの参加者を得まして成功裡に本ツアーが催うされましたことは、「協会だより(8)」にて既に会員の皆様には、ご報告いたしました。

アルゼンチン祖国の父、ホセ・デ・サン・マルティン将軍は、ラテンアメリカ大陸の独立と自由と民主主義の為に生涯を捧げた将軍としてのみならず、崇高な精神、謙虚、質素、家族への温かな思いやり、人間についての鋭い洞察と理解を兼ね備えた人格者として、あらゆる世代の手本となる人と尊敬されており、改めてここに写真と併せて、本ツアーを報告させていただきます。



海上自衛隊護衛艦「いかづち」に、東京晴海埠頭で乗艦して、横須賀港までの約2時間の体験航海は、海上自衛隊ご関係者の格別のご厚意により、またとない艦上体験であり、また、好天に恵まれ、爽快な潮風を受けて東京湾の風景を眺望する船旅でありました。

在日アルゼンチン大使館からはオセラ公使一行、当協会からは土屋会長、木島理事長他多数の役員、会員が、また埼玉アルゼンチン友好協会からもご関係者多数のご参加を得まして、総勢100余名の参加者となり、参加者は艦内を參觀でき、二度とない体験をして、航海を満喫されたのではと思います。

参加者一行は、昼過ぎ横須賀港に到着後、観音崎で昼食をとった後、防衛大学校を訪問。

同校構内にある、アルゼンチン祖国の父—サン・マルティン将軍の胸像に献花、参拝を行い、参加者全員が意義深いひと時を体験しました。

同大学校のご厚意により、同校資料館を見学した後、JR横須賀駅に到着し、全行程を恙なく遂行することができました。

サン・マルティン将軍胸像への献花式で、オセラ公

使がご挨拶されました。その内容訳文を、下記に紹介いたします。

### 本アルゼンチン協会主催：サン・マルティン将軍への 献花式

ホルヘ・オセラ公使挨拶

私は、ひとりのアルゼンチン人として、我々の解放者であるサン・マルティン将軍に敬意を表するため、胸像の前におりますことを名誉に思います。

今回のサン・マルティン将軍胸像への献花式の実現にご尽力下さいました木島大使をはじめ、日本アルゼンチン協会の皆様、また日頃から大使館の活動にご支援くださる方々に心から御礼申し上げます。また、本日は、特別に土屋義彦会長のご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

アルゼンチン人にとって、サン・マルティン将軍がいかにか重要な人物であるかについて、ここで説明したいと思います。サン・マルティン将軍の功績としては、南米大陸の約半分の地域の解放を成し遂げ、アルゼンチンをはじめ、ペルー、チリの独立を促した軍事的功績がまず挙げられますが、それ以外の重要な一面についても少し触れたいと思います。

私にとってサン・マルティン将軍は、公僕として、軍人として、一市民として、ひとりの人間として、またアルゼンチン人として人生の模範となる方であることは疑う余地がありません。スペインで学問を修め、人生の大部分をアルゼンチン国外での戦いにあけくれ、第一線を退いた後、亡くなるまで外国で暮らしたサン・マルティン将軍が、アルゼンチンで未だに根強い人気を持ち、国民に愛されていることは興味深い事実です。



晴海を出港、艦上で一向かって左から；荒尾常務理事、防衛省 藤澤二等海佐、ロドリゲス書記官、オセラ公使、土屋会長、柏倉ア大使館秘書、木島理事長





横須賀港到着

歴史家フェリックス・ルナが述べているように、公人としても、私人としても徳の高い傑出した人物であったからこそ、英雄の中の英雄と讃えられるのだと思います。

軍人としてサン・マルティン将軍は、ナポレオンに匹敵するような偉大な功績を挙げています。平原を越え、谷を渡り、荒野を駆け抜け、世界の屋根と呼ばれるアンデス山脈を越えて解放を実現しました。理想を実現する為に軍隊を創設し、準備、養成し、訓練しなければなりません。時に自分を中傷する人々に対し、自分の考え方を押し通さなければなりません。時に自分の立てた戦略を理解してもらう為に、政府関係者を説き伏せ、納得させなければなりません。時に内紛に巻き込まれないよう、あらゆる知恵を働かさなければなりません。健康に不安を抱えていましたが、何とか対処しなくてはなりません。個人的に娘メルセデータの教育を行わなければなりません。

サン・マルティンはそうした諸々のこと、全てを成し遂げたのです。逆境に耐え、南米大陸のほぼ半分の地域を解放し、正義、社会福祉を実現しました。

このような人物は他にはないと思います。唯一無二の存在です。サン・マルティン将軍には、数々の徳が備わっていました。人間として、平和と正義を常に求め、法の尊守を旨としました。個人として、常に謙虚で、慎ましく暮らし、華々しい名誉や賞などは辞退し、高い道徳心を持っていました。軍人として、名誉、指揮、規律を重んじる有言実行の人でありました。

アルゼンチンの元大統領で、サン・マルティン将軍の研究家としても知られているバルトロメ・ミトレは、「ひとりの人間の関与が本人の運命のみならず、人類の運命を決定的に変えることが稀にある。サン・マルティン将軍は将軍が指揮をとって実現した事柄において、また、その結果生ずる全てのことに責任を持って行動した人だ」と述べています。

「サン・マルティン将軍は戦場で勝ち取った名誉や、

解放者としての功績故に偉大なのではなく、彼自身に兼ね備わった徳によって偉大なのだ。だからこそ「剣を持つ聖人」として知られているのである」

サン・マルティン将軍は、彼の人格を形作る徳によって、時間の壁を越えて永遠の存在になったのです。謙虚で自分をひけらかさない人柄故に、長いこと国を離れている間に神格化されたのである。人生において何の見返りも求めず、静かにこの世に下りてきて、忘却の中に黙って姿を消し、不死鳥のように甦る。彼は神話なのではなく、ひとつの思想を体現している存在なのです。だからこそ、今も生き続けているのです。

皆様、サン・マルティン将軍は、過去の人物ではなく、永遠に生き続ける存在です。国の為に貢献する公人としてのあるべき姿を私たちは彼の中に見るのです。

私達アルゼンチン人にとって、サン・マルティン将軍は胸像や銅像としての存在なのではなく、我々と同じ側に立ち、我が国の行く末を見守ってくれるもう一人のアルゼンチン人なのです。

サン・マルティン将軍、ありがとうございました。

皆様、ご清聴ありがとうございました。



サン・マルティン将軍胸像前で



オセラ公使挨拶



## 2. 公益法人制度改革 —新制度への移行準備

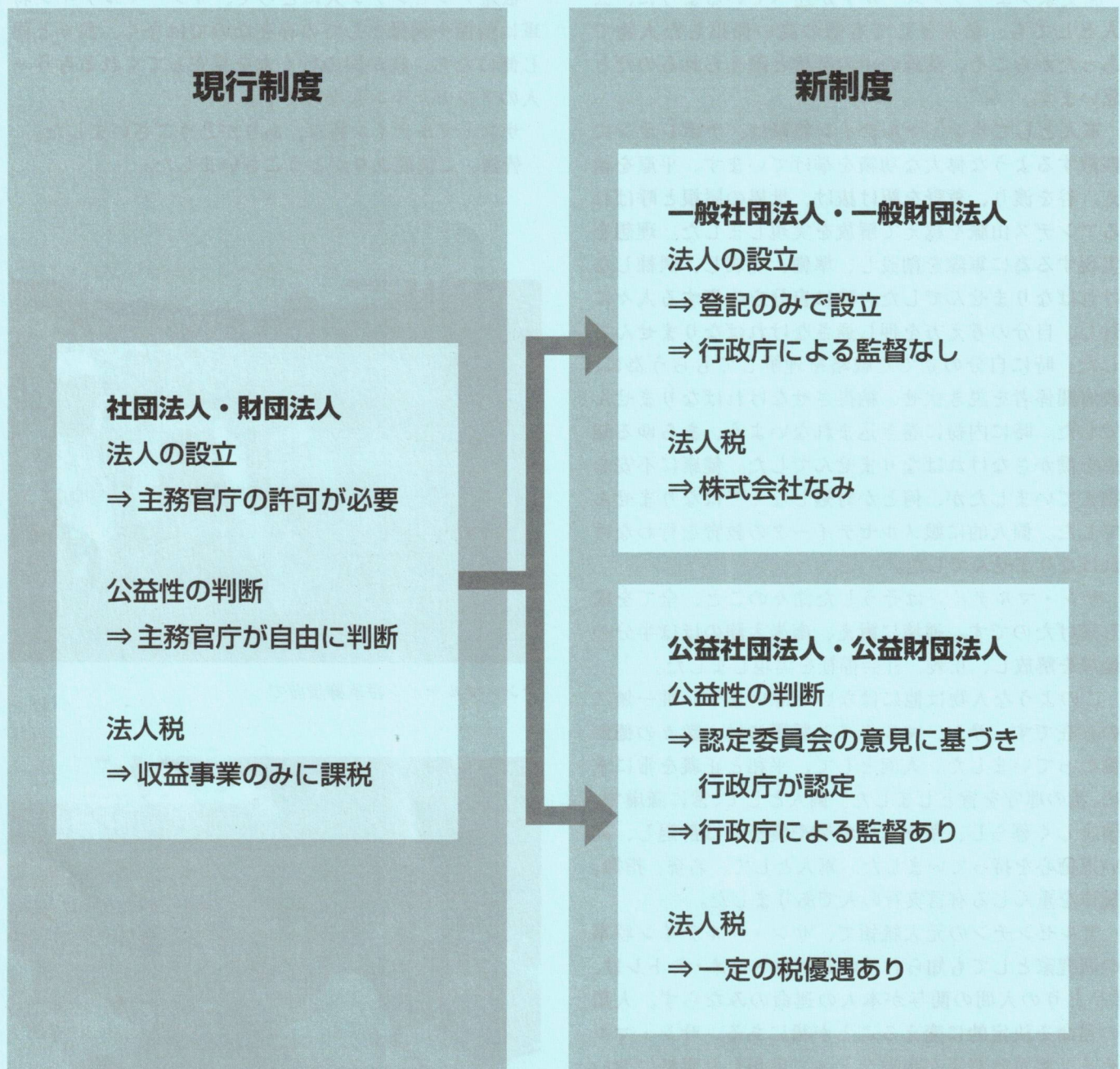
平成 18 年 6 月 2 日付けで現在の公益法人制度を抜本的に改革する新しい法律が公布されました。この法律は、平成 20 年 12 月 1 日に施行となり、現存の公益法人の新法人への移行が開始されます。

これに伴い、現在社団法人である当協会は、これまで公益法人協会等の主催するセミナーに関係役員が出席して、移行対応への準備を始めています。

具体的準備は、来年平成 20 年 3 月頃制定される予定の公益認定等委員会ガイドラインが公表されてからとなりますが、この制度改革のポイントをまとめてみましたので、下記にご紹介します。

### (1) 公益法人制度改革のポイント

今回の公益法人制度改革の目的は、民間非営利部門の活動の健全な発展を促進し、現行の公益法人制度に見られる様々な問題に対応するため、従来の主務官庁による公益法人の設立許可制度を改め、登記のみで法人を設立できる制度を創設するとともに、そのうちの公益目的事業を行うことを主たる目的とする法人については、民間有識者による委員会の意見に基づき公益法人に認定する制度を創設したものです。その概要を図示すると、次の通りです。





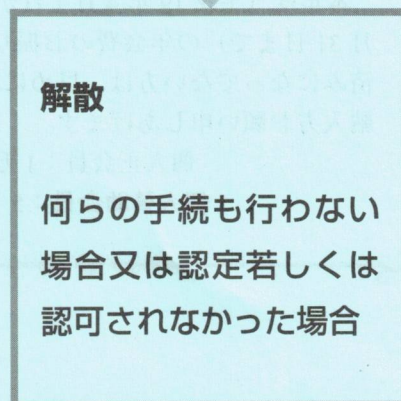
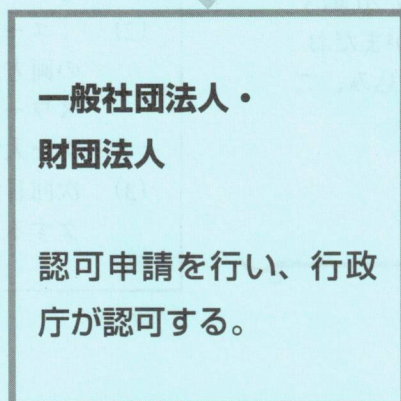
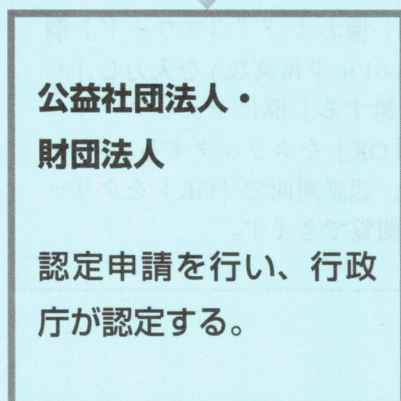
## (2) 法律施行のスケジュール

- 1) 平成 18 年 6 月 2 日 公益法人改革 3 法（一般社団法人および一般財団法人に関する法律、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律）の公布
- 2) 19 年 9 月 2 日 政令・内閣府令の公布
- 3) 19 年 12 月 税制改正方針決定
- 4) 20 年 3 月頃 公益認定等委員会ガイドライン制定
- 5) 20 年 12 月 1 日 (1) の 3 法律施行  
現存公益法人の新法人への移行開始
- 6) 25 年 11 月 30 日 移行期間満了

## (3) 移行の経過措置

法律施行時(平成 20 年 12 月 1 日)に現存する公益法人はすべて**特例社団法人**又は**特例財団法人**となる。ただし、新法人へ移行するまでは、経過措置により、現在の公益法人とほぼ同様の運営を行い、主務官庁の監督を受ける。

その後、下図のいずれかを選択することとなる。



# イベントのご案内

## 1. フェルナンド・ラス写真展

—アルゼンチン大使館後援—

在日アルゼンチン大使館の前公使、フェルナンド・ラス氏（1992～2004年まで滞在）が、日本滞在中に予てより興味を持たれていた明治の洋館の数々を写真に撮り納めており、その作品の展示会「フェルナンド・ラス写真展「Meiji Architecture —明治の洋館—」が、東京工芸大学芸術学部主催、アルゼンチン大使館後援で

11月27日(火)から12月20日(木)まで同大学中野キャンパス内（中野区本町 2-9-5、Tel.03-3372-1321(代)）にて開催されています。（入場無料）

ラス氏は、公務の傍ら、一流プロ写真家に師事して、写真を本格的に学ばれた写真家で、大変興味深い作品が多数展示されています。

詳細は、ア大使館のHPのイベント案内をご覧ください。

(<http://www.embargentina.or.jp/calend/11gatsu07.htm>)



## 2. アルゼンチンで食糧開拓 —ギアリンクス社

岐阜県の食品会社、ギアリンクス社の食糧確保に向けてのアルゼンチン進出、新市場開拓については、以前、会報 No. 45 号（2004 年 11 月）にて、「アルゼンチンで食糧確保を」としてご紹介しました。

11 月 27 日付日経新聞「岐路に立つ中小企業—新たな地を求めて」欄にて、同社の活躍振りが紹介されており、本年は消費者の安全志向に対応して、遺伝子組み換えではない大豆を日本に 5 百トン輸入し、事業の明るい見通しが記述されています。

来春 1 月 3 日に、TV-12 チャンネル「ガイアの夜明け」の中の特集番組として、同社の活動状況が放映される由です。

中国等が、南米で食糧確保のため、特に亜国に強い視線を向けている中、孤軍奮闘されている同社の活躍が期待されます。

### 平成 19 年度年会費納入の御願い

本年度（平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで）の年会費のお振り込みがまだお済みになっていない方は、早めにお振り込み、ご納入方お願い申し上げます。

個人正会員：1 万円

個人賛助会員：5 千円



## 協会ホームページの 活用お願い

<http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ（HP）の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

尚、今春に「イベント案内」「掲示板」への多量の迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。

この変更は、「協会だより（6）」（本年 2 月 7 日発行）でご案内していますが、次の通りですので、HP をご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、“ユーザー名とパスワードが必要です”との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」（半角英数）を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

## 編集長よりの御礼

フロントページの版画は、今回も版画大家星野美智子女史の作品を使用させていただいております。また今回は、星野女史に、ご多忙の中、インタビューさせていただき、その記事を掲載させていただきました。ご協力、ご厚意に対し厚く御礼申し上げます。

執筆・原稿につきましては、ブノスアイレス在住、菊池寛士さんにご協力をいただきました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、当協会理事のイレーネ賀集さんに作成していただきました。

末筆ながら、この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

### 日本アルゼンチン協会会報 第 51 号 2007 年 12 月 7 日発行

発行人 木島 輝夫（当協会副会長兼理事長）

編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会

〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

E-mail：argentina@nifty.com

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート